第3章

撮影する

撮影のしかた

撮影操作の流れと、基本的な撮影方法について説明します。

操作の流れ

基本的な撮影方法は、次のような流れになります。

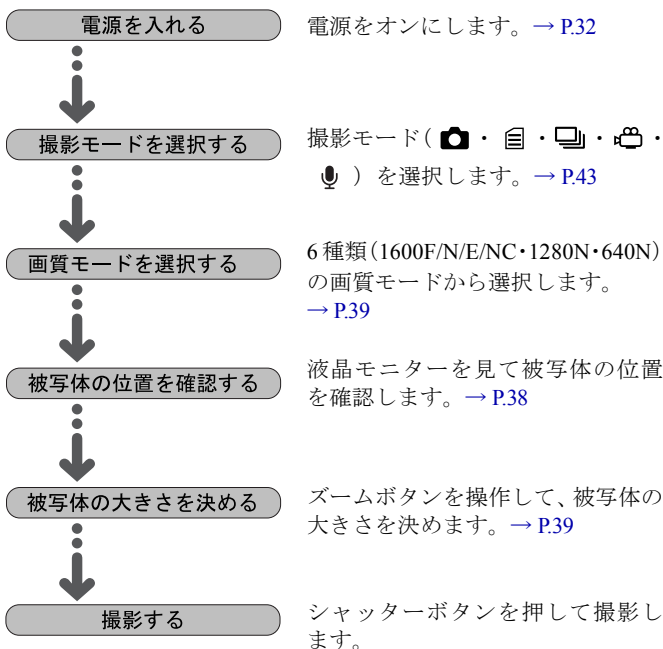
電源をオンにします。→ P.32

撮影モード（・・・・）を選択します。→ P.43

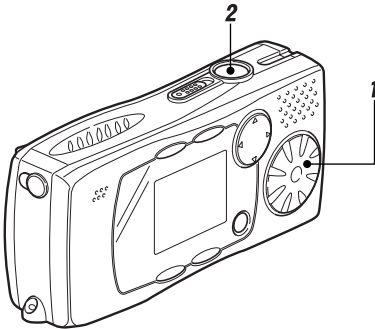
6種類（1600F/N/E/NC・1280N・640N）の画質モードから選択します。→ P.39

液晶モニターを見て被写体の位置を確認します。→ P.38

ズームボタンを操作して、被写体の大きさを決めます。→ P.39

シャッターボタンを押して撮影します。

静止画を撮影する（静止画モード）

静止画モードは、一般的な撮影に使用します。

■操作マップ

モードダイヤル
[カメラアイコン]

1 モードダイヤルを［ [カメラアイコン] ］に合わせる

・P.39「被写体の大きさを変える（ズーム）」
・P.38「ピントの合わせ方」

2 シャッターボタンを押す

撮影画像が表示され、記録されます。

重要

- **記録中は、カードカバースイッチをスライドしてカードを取り出したり、AC アダプターを取り外さないでください。**
- **撮影の記録中は、オートフォーカスランプやフラッシュランプが点滅します。記録が終了するまで、モードダイヤルを回したり、電源を切ったりしないでください。**

補足

- 電源がオンのとき、設定された時間内にカメラの操作（ボタン操作）をしないと、オートパワーオフが働きます。撮影するまでに時間がかかる場合は、オートパワーオフが働かないように設定してください。
  P.92「オートパワーオフの設定を変更する」
- カメラを長時間使用するときは、予備のバッテリーまたは AC アダプターを用意してください。

補足

- 被写体までの距離が望遠時で約 40ｃｍ、広角時で約14ｃｍより近いときは、マクロ撮影してください。P.54「至近距離で撮影する（マクロモード）」
- 撮影画像の表示時間は、任意に設定できます。P.91「画像確認時間を変更する」
- 音声を付けて撮影できます。P.55「音声を付けて撮影する（音声付き撮影）」
- 画質モードが NC（非圧縮）のときは、記録処理に時間がかかります。

コラム

フォーカスロック撮影

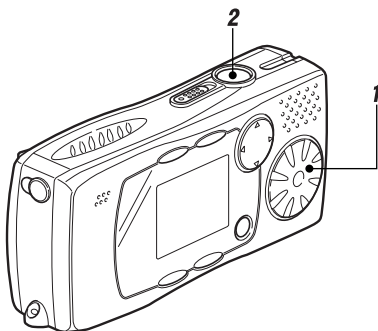
通常は、液晶モニターのオートフォーカス範囲に見える被写体にピントが合います。ピントを合わせたい被写体がこの条件に合わない場合、その被写体にはピントが合わずボケてしまうことがあります。このようなときにフォーカスロックで撮影します。

1. **ピントを合わせたい被写体にオートフォーカス範囲を合わせる**

2. **シャッターボタンを軽く押し、オートフォーカスランプが緑色に点灯したら、指をそのままの位置で止める**
   この時点でピント、露出、ホワイトバランスが固定されます。
3. **指を止めたままカメラを動かして構図を決め、シャッターボタンを押しきる**

文字を撮影する（文字モード）

文字を記録します。文字などの記録に適した処理を行い、黒と白の２つの値だけで記録します。

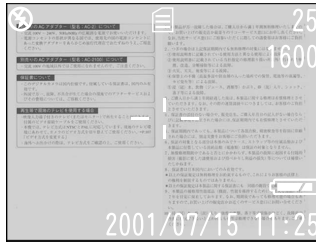
■操作マップ

モードダイヤル

1 モードダイヤルを［ ］に合わせる

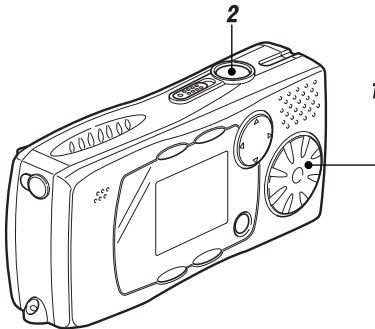
▶▶▶・P.39「被写体の大きさを変える（ズーム）」
・P.38「ピントの合わせ方」

2 シャッターボタンを押す

撮影画像が表示され、記録されます。

・記録処理に時間がかかります。

連続して撮影する（連写モード）

シャッターボタンを押している間、連続して撮影します。シャッターチャンスを逃がすことなく撮影したいときに便利です。

■操作マップ

1 モードダイヤルを［ ］に合わせる

▶▶▶・P.39「被写体の大きさを変える（ズーム）」
・P.38「ピントの合わせ方」

補足

・撮影時の濃淡を変更できます。

▶▶▶P.62「撮影時の濃淡を変更する（濃淡レベル設定）」

・音声付きで撮影できます。

▶▶▶P.55「音声を付けて撮影する（音声付き撮影）」

2 シャッターボタンを押す

シャッターボタンを押している間、連続して撮影されます。

シャッターボタンから指を離すと連続撮影は停止します。

補足

- 連写モードでは、フラッシュは発光しません。
- 連写モードでは、非圧縮は選べません。
- シャッターボタンを押したときの状態で、フォーカスや露出、ホワイトバランスが固定されます。
- ファイル番号が 9999 になった場合は、撮影はできません。記録したファイルを他のメディアにコピーしてからフォーマットするか、新しい SD メモリーカードをセットしてください。

●連続撮影できる最大枚数

画質モードによって、連続撮影できる最大枚数の目安は次のようになります。

サイズ（画素数）	画質（圧縮率）		
	F ファイン	N ノーマル	E エコノミー
1600 × 1200	約 7 枚	約 14 枚	約 28 枚
1280 × 960	－	約 14 枚	－
640 × 480	－	約 56 枚	－

・お使いのカードによって、1 回に連続して撮影できる最大枚数は異なります。

動画を撮影する（動画モード）

動画を撮影します。記録先の残り容量に応じて、撮影できる時間が表示され、音声も同時に記録されます。

重要

・マイクは、操作部の左上にあります。

■操作マップ

モードダイヤル
[動画]

1 モードダイヤルを［ 動画 ］に合わせる

液晶モニターに、撮影可能な時間が表示されます。

2 シャッターボタンを押す

撮影が開始されます。

再度シャッターボタンを押すと、撮影を終了します。

補足

・撮影中は、ズームは作動しません。
・動画モードでは、フラッシュは発光しません。
・シャッターボタンを軽く押したときの状態で、フォーカスが固定されます。

補足

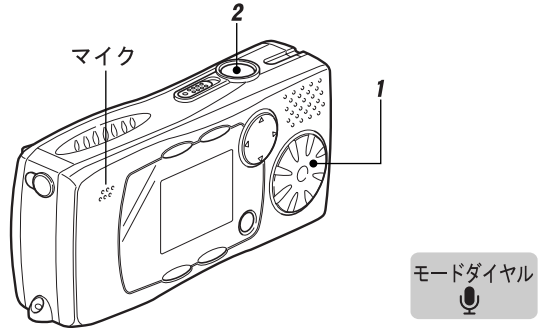
・サイズ（画素数）は、320 × 240 です。
・動画モードの場合、液晶モニターに黒い枠が表示されます。

音声を記録する（音声モード）

音声を記録します。記録先の残り容量に応じて、録音できる時間が表示されます。

重要

・マイクは、操作部の左上にあります。最適な状況で録音できるように、カメラの向きを調整してください。

■操作マップ

モードダイヤル
🎙

1 モードダイヤルを［🎙］に合わせる

液晶モニターに、録音可能な時間が表示されます。

2 シャッターボタンを押す

録音が開始されます。録音中は🎙が点滅し、録音時間が表示されます。

再度シャッターボタンを押すと、録音を中止できます。

補足

・録音／録音可能時間が99分59秒を超える場合、液晶モニターの表示は、時：分に切り替わります。（例：100分のとき「1:40」）

いろいろな機能を使って撮影する

ここでは、いろいろな撮影機能について説明します。撮影モードによって利用できる機能が異なります。下表を参考にしてください。

機能	静止画	文字	連写	動画	音声
フラッシュモード	○	○	×	×	×
露出補正	○	○	○	○	×
ホワイトバランス	○	×	○	○	×
マクロモード	○	○	○	○	×
音声付き撮影	○	○	×	×	×
フォーカス	○	○	○	○	×
日付入れ撮影	○	○	○	×	×
ISO 感度設定	○	○	○	×	×
赤目防止	○	×	×	×	×
長時間露光	○	×	×	×	×
濃淡レベル設定	×	○	×	×	×
デジタルズーム	○	×	×	×	×

フラッシュを使って撮影する（フラッシュモード）

このカメラでは、４種類のフラッシュモードがあります。撮影状況に合わせてモードを切り替えてお使いください。

表示	モード名	内　容
(発光禁止マーク)	発光禁止	暗いところでもフラッシュは発光しません。
なし	オート	暗いところで、自動的にフラッシュを発光します。
⚡ 点灯	強制発光	明るさに関係なく、常にフラッシュが発光します。
⚡ 点滅	スローシンクロ	フラッシュを発光する際、被写体にフラッシュの光があたり、背景も遅いスピードで撮影できます。フラッシュを発光させたとき、背景だけが暗くなるのを軽減できます。

・初期設定は、(発光禁止マーク)（発光禁止）です。

フラッシュの届く距離

フラッシュを発光させて撮影する場合、撮影距離は望遠時で約 0.6 ～ 2.0m、広角時で約 0.6 ～ 2.5m です。被写体にフラッシュの光が届かないと、被写体が暗く撮影されます。

1 モードダイヤルを［ ］または［ ］に合わせる

2 ボタンでフラッシュモード（ ・オート［表示なし］・ 点灯・ 点滅）を選ぶ

ボタンを押すごとにフラッシュモードが切り替わります。

3 シャッターボタンを押す

フラッシュが発光するときは、シャッターボタンを軽く押したときにフラッシュランプ（赤）が点灯します。

フラッシュ充電中はフラッシュランプが点滅し、液晶モニターの表示が消えます。このときは撮影できません。

重要

- 近い被写体（約 0.6m 以下）をフラッシュ撮影すると、フラッシュの光が赤く写ることがあります。また、露出オーバーになるため、被写体が白っぽく撮影されることがあります。このようなときは、発光禁止モードで撮影してください。
- 暗いところでは自動的にシャッタースピードが遅くなります。カメラブレが起きないように、しっかり構えて撮影してください。特に望遠側（［ ］）では、カメラブレにご注意ください。

補足

- 次の場合、フラッシュは発光しません。
  －撮影モードが連写、動画、音声のとき
  －ホワイトバランスが屋外、曇天、白熱灯、蛍光灯のとき
- フラッシュを利用して撮影するとき、液晶モニターが暗く見える場合は、広角側で撮影してください。望遠側ではピントが合いにくいことがあります。

補足

- フラッシュモードの設定内容を保持するときは、モード保持を設定してください。
▶▶▶ P.90「カメラの設定内容を記憶する」
- 赤目防止を利用すると、赤目を軽減して撮影できます。
▶▶▶ P.60「赤目を軽減して撮影する（赤目防止）」

露出を変えて撮影する（露出補正）

通常、撮影範囲の中央に被写体があると自動で逆光補正を行うので、このまま撮影することができます。しかし、背景と被写体との間に極端な明暗差がある場合、被写体の露出がアンダー（暗い）やオーバー（白っぽい）になってしまいます。このようなときに露出補正をします。また、意図的に露出アンダーやオーバーな撮影をしたいときにも使用できます。

●露出補正の範囲

± 2.0EV（0.5EV ステップで設定）

●逆光撮影の場合

背景が非常に明るい場合など、被写体は露出アンダーになります。このようなときは＋側に数値を増やして補正します。

●白っぽい被写体を写す場合

全体に白っぽい被写体を写すときは、全体的に露出アンダーになり、人物などは暗く、白いものはグレーのように写ります。このようなときは＋側に数値を増やして補正します。

●黒っぽい被写体を写す場合

全体に黒っぽい被写体を写すときは、全体的に露出オーバーになり、人物などは白く、黒いものはグレーのように写ります。このようなときは－側に数値を増やして補正します。スポットライトが当たった人物を写すときなども同様です。

重要

・逆光のとき、撮影範囲の中央に被写体がないときには、カメラは逆光状態と判断しません。露出補正をしてください。

1 モードダイヤルを［ ・ ・ ・ ］のいずれかに合わせ、MENU ボタンを押す

2 が選択されていることを確認し、ENTER ボタンを押す

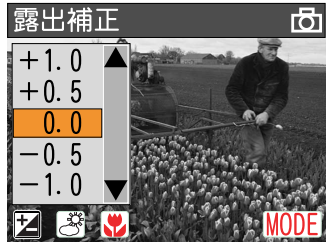
補足

・ が選択されていないときは、◀・▶ボタンで選択してください。

3

撮影する

3 ▲・▼ボタンで補正値を選び、ENTERボタンを押す

4 シャッターボタンを押す

露出補正値を表示

補足

・露出補正の設定内容を保持するときは、モード保持を設定してください。

▶▶▶ P.90「カメラの設定内容を記憶する」

自然光や照明光を使って撮影する（ホワイトバランス）

ホワイトバランスモードは、どんな光源の下でも自然の色合いで撮影できるようホワイトバランスを調整する機能です。通常はオートモードで撮影します。

オートモードのときは、どんな光源の下でも白いものを白く撮影するよう、白色系の部分を基準にホワイトバランスを自動的に調整しています。そのため、被写体に白色系の部分が少ない場合や暗い場合は、ホワイトバランスが合わないことがあります。このようなときに、ホワイトバランスモードを変更して撮影してください。

表示	モード名	内　容
なし	オート	カメラにまかせて自動で調整します。
	屋外	屋外の撮影で、ホワイトバランスが合いにくいときに使用します。
	曇天	曇天や日陰などの撮影で、ホワイトバランスが合いにくいときに使用します。
	白熱灯	白熱灯の下の撮影で、ホワイトバランスが合いにくいときに使用します。
	蛍光灯	蛍光灯の下の撮影で、ホワイトバランスが合いにくいときに使用します。

・初期設定は、オートモードです。

オートモードの苦手な被写体

・単一色な被写体
・複数の光源のある被写体

1 モードダイヤルを［ ・ ・ ］のいずれかに合わせ、MENU ボタンを押す

2 ▶ボタンで を選び、ENTER ボタンを押す

3 ▲・▼ボタンでホワイトバランス（オート・屋外・曇天・白熱灯・蛍光灯）を選び、ENTER ボタンを押す

4 シャッターボタンを押す

重 要

・同じ被写体を撮影しても、天候や光源（白熱灯や蛍光灯）の種類により色の度合いが異なります。

補 足

・オートモードの場合、被写体に白色系の部分が少ないと、ホワイトバランスが合わないことがあります。このようなときは、被写体に白色系のものを入れて撮影してください。
・屋外、曇天、白熱灯、蛍光灯のときは、フラッシュは発光しません。

補 足

・ホワイトバランスの設定内容を保持するときは、モード保持を設定してください。
▶▶▶ P.90「カメラの設定内容を記憶する」

至近距離で撮影する（マクロモード）

被写体に近づいてクローズアップで撮影することをマクロ撮影といいます。被写体までの距離が望遠時で約40ｃｍ、広角時で約 14ｃｍ より近いときはマクロ撮影してください。

補足
・マクロモードを設定すると、被写体までの距離を約4cmまで近づいて撮影することができます。

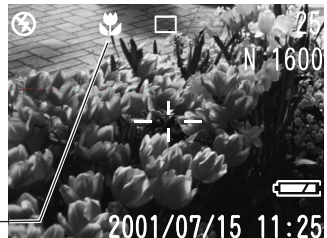
1 モードダイヤルを［ ・ ・ ・ ］のいずれかに合わせ、MENU ボタンを押す

2 ▶ボタンで を選び、ENTER ボタンを押す

3 ▲・▼ボタンで［ON］を選び、ENTER ボタンを押す

補足
・［OFF］を選択すると、マクロモードを解除できます。

4 シャッターボタンを押す

マクロモード表示

重要
・マクロ撮影ではピント合わせの範囲がせまいため、カメラが動くとピントが外れることがあります。カメラが動かないように、しっかりと構えて撮影してください。

音声を付けて撮影する（音声付き撮影）

静止画または文字と音声を約 10 秒記録します。撮影状況やコメントを添えるときに利用します。

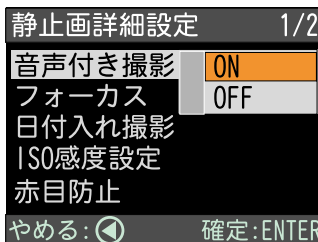
重要

・マイクは、操作部の左上にあります。最適な状況で録音できるように、カメラの向きを調整してください。

1 モードダイヤルを［📷］または［📄］に合わせ、MENU ボタンを押す

2 ▶ボタンで MODE を選び、ENTER ボタンを押す

3 ▲･▼ボタンで［音声付き撮影］を選び、▶ボタンを押す

4 ▲･▼ボタンで［ON］を選び、ENTER ボタンを押す

5 CANCEL ボタンを押す

補足

・［OFF］を選択すると、音声付き撮影を解除できます。

6 シャッターボタンを押す

撮影画像が表示されたあと、音声が約 10 秒記録されます。音声記録中は 🎙 が点滅します。

補足

- 撮影画像の記録後に録音を開始します。このとき 🎙 の点滅で録音を確認してください。
- 録音中、再度シャッターボタンを押すと記録を終了します。

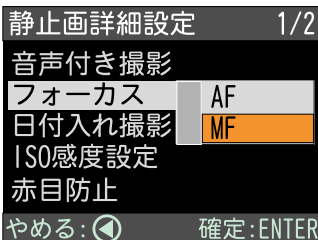
手動でピントを合わせて撮影する（フォーカス）

被写体にピントが合わないとき、手動でピントを合わせながら撮影（マニュアルフォーカス撮影）できます。

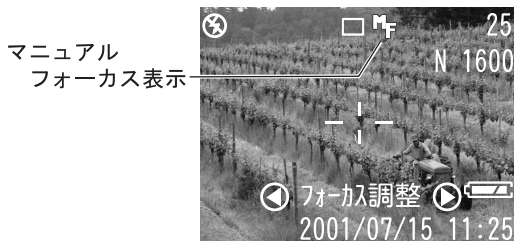
1 モードダイヤルを［📷・▤・❐・🎥］のいずれかに合わせ、MENU ボタンを押す

2 ▶ボタンで MODE を選び、ENTER ボタンを押す

3 ▲・▼ボタンで［フォーカス］を選び、▶ボタンを押す

4 ▲・▼ボタンで［MF］を選び、ENTERボタンを押す

5 CANCELボタンを押す

6 ◀・▶ボタンでピントを合わせ、シャッターボタンを押す

フォーカス調整表示（◀**フォーカス調整**▶）は、◀・▶ボタンを離すと約2秒で消えます。

マニュアルフォーカス表示

日付を入れて撮影する（日付入れ撮影）

静止画に日付を入れて撮影するときに使用します。

1 モードダイヤルを［📷・▤・⧉］のいずれかに合わせ、MENUボタンを押す

2 ▶ボタンで MODE を選び、ENTERボタンを押す

補足
・［AF］を選択すると、マニュアルフォーカスを解除できます。（オートフォーカスモードになります。）

補足
・フォーカスの設定内容を保持するときは、モード保持を設定してください。
▶▶▶ P.90「カメラの設定内容を記憶する」

補足
・SET UP モードで正しい日時を設定してください。
▶▶▶ P.36「日付や時刻を設定する」

3 ▲･▼ボタンで［日付入れ撮影］を選び、▶ボタンを押す

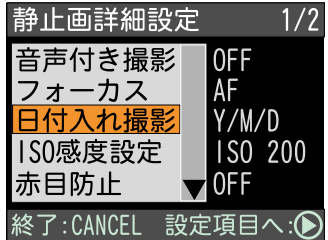
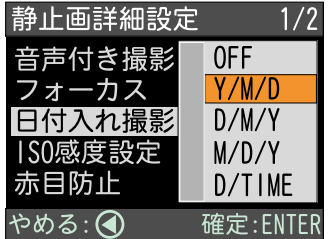
▲･▼ボタンで表示形式を選び、ENTER ボタンを押す

2001 年 7 月 15 日 午前 10 時の場合、表示形式は次のようになります。

Y/M/D ：2001/07/15

D/M/Y ：15/07/2001

M/D/Y ：07/15/2001

D/TIME ：2001/07/15 10:00

補足
・［OFF］を選択すると、日付入れ撮影を解除できます。

5 CANCEL ボタンを押す

6 シャッターボタンを押す

日付入れ撮影が設定されると、液晶モニターの日付がオレンジ色の文字に変わります。

補足
・日付入れ撮影の設定内容を保持するときは、モード保持を設定してください。
▶▶▶ P.90「カメラの設定内容を記憶する」

撮影感度を変えて撮影する（ISO 感度設定）

撮影感度を切り替えて撮影できます。

1 モードダイヤルを［ 📷 ・ ▤ ・ ⧉ ］のいずれかに合わせ、MENU ボタンを押す

2

▶ボタンで MODE を選び、ENTER ボタンを押す

3

▲・▼ボタンで［ISO 感度設定］を選び、▶ボタンを押す

4

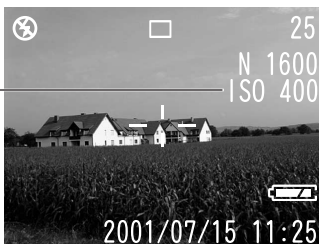
▲・▼ボタン撮影感度（AUTO・ISO200・ISO400）を選び、ENTER ボタンを押す

5

CANCEL ボタンを押す

6

シャッターボタンを押す

撮影感度表示

補足

・撮影感度の設定内容を保持するときは、モード保持を設定してください。

P.90「カメラの設定内容を記憶する」

赤目を軽減して撮影する（赤目防止）

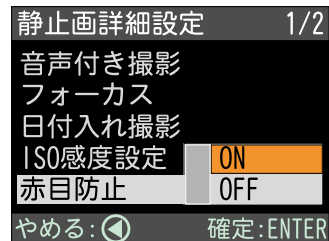
暗いところでフラッシュが発光したとき、目が赤く写ることがあります。この現象を「赤目」といいます。赤目を軽減したいときに、このモードを使用します。

シャッターが切れる前にフラッシュが数回発光し、これにより赤目が軽減されます。

1 モードダイヤルを［📷］に合わせ、MENU ボタンを押す

2 ▶ボタンで MODE を選び、ENTER ボタンを押す

3 ▲・▼ボタンで［赤目防止］を選び、▶ボタンを押す

4 ▲・▼ボタンで［ON］を選び、ENTER ボタンを押す

5 CANCEL ボタンを押す

6 シャッターボタンを押す。

シャッターボタンを押すと、フラッシュが数回連続して予備発光したあと、本発光してシャッターが切れます。

赤目防止表示

重要

・シャッターボタンを押してからシャッターが切れるまで、約１秒かかります。カメラをしっかりと構えて撮影してください。

補足

・赤目防止の設定した内容が保持されます。
・フラッシュモードが（発光禁止）のときは利用できません。

露光時間を設定して撮影する（長時間露光）

長時間露光モードでは、露光時間（1 秒、2 秒、4 秒）を切り替えることができます。これは、設定した時間内シャッターを開いて撮影するので、暗い所で、花火や走っている車などの被写体を撮影すると、被写体の軌跡を撮影することができます。

重要

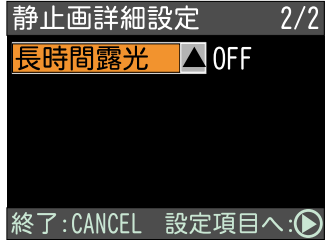
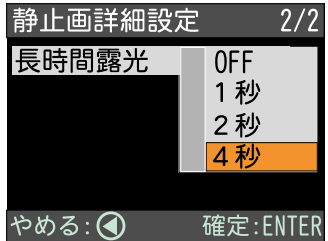
・長時間露光モードでは、カメラをしっかりと構えて撮影してください。

1 モードダイヤルを［ ］に合わせ、MENU ボタンを押す

2 ▶ボタンで MODE を選び、ENTER ボタンを押す

3

撮影する

3 ▲･▼ボタンで［長時間露光］を選び、▶ボタンを押す

4 ▲･▼ボタンで露光時間（OFF･1秒･2秒･4秒）を選び、ENTERボタンを押す

5 CANCELボタンを押す

6 シャッターボタンを押す

長時間露光モード表示

補足

・長時間露光の設定内容を保持するときは、モード保持を設定してください。

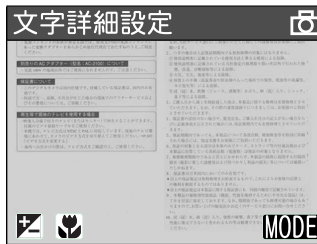
▶▶▶ P.90「カメラの設定内容を記憶する」

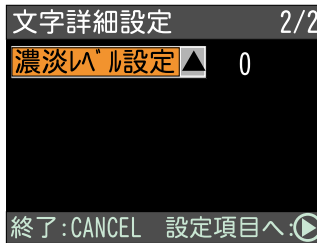
撮影時の濃淡を変更する（濃淡レベル設定）

文字モードの撮影では、文字をより読みやすくするため、5段階の濃淡設定が行えます。

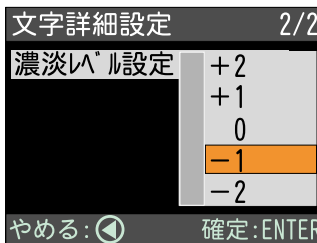
1 モードダイヤルを［ ］に合わせ、MENUボタンを押す

2

▶ボタンで MODE を選び、ENTER ボタンを押す

3

▲・▼ボタンで［濃淡レベル設定］を選び、▶ボタンを押す

4

▲・▼ボタンで濃淡レベルを選び、ENTER ボタンを押す

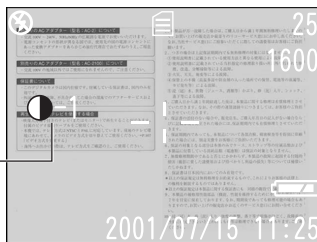
5

CANCEL ボタンを押す

6

シャッターボタンを押す

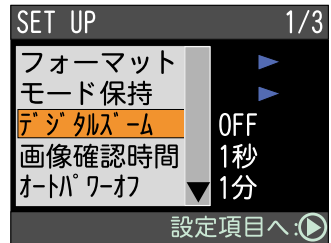
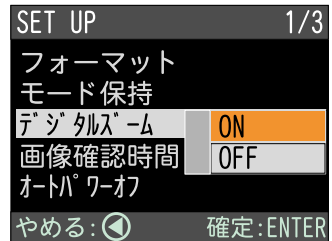
濃淡レベル設定表示

補足

・＋側は濃く、－側は淡くなります。

デジタルズームで撮影する（デジタルズーム）

ズームが最も望遠側（TELE 端）のとき、[T] ボタンをさらに押し続けると、デジタルズームが働いて拡大して撮影できます（最大 2 倍）。

1 モードダイヤルを［ SETUP ］に合わせる

2 ▲・▼ボタンで［デジタルズーム］を選び、▶ボタンを押す

3 ▲・▼ボタンで［ON］を選び、ENTER ボタンを押す

・［OFF］を選択すると、デジタルズームを解除できます。

4 モードダイヤルを［ 📷 ］に合わせる

5 [T] ボタンを約 1 秒以上押してデジタルズームモードに入り、倍率を決める

ズームレバーのオレンジ色の部分がデジタルズームの範囲になります。

[T] ボタンを押し続けると、デジタルズームを解除できます。

6 シャッターボタンを押す